

問題点という観点からは、高久先生の「我が国の医学教育の現状と問題点」とアメリカの Tulane 大学の Dr. Vigh の “Medical Education in the Past Decade : From Lecture To OSCE” と Dr. Anderson の “Status of OSCE in the US : How to Do It” の 2 題が、韓国からの招請講演として Seoul National University の Dr. Lee が “OSCE for Medical Licensing Examination in Korea” が行われ、大きなインパクトを与えた。

シンポジウムは「新渡戸稲造の武士道から学ぶプロフェッショナルリズム」、「教育業績評価を考える」、「日本の医学系大学院はこれでいいか」が開かれ活発な討論がなされた。盛岡での開催のため「新渡戸稲造の心」と題する大会長の講演が行われ、稲造の心は「人類に対する博愛の精神」であると結ばれた。本大会が日本の医療やグローバルな医学教育の重要性を再認識する契機となれば主催者として大きな喜びである。

### 3. 第 40 回大会報告

大滝 純司（東京医科大学医学教育学講座）

第 40 回は、東京医科大学（大会長：伊東洋、実行委員長：松岡健）の主管により、平成 20 年 7 月 25 日・26 日の両日、東京の共立講堂・学術総合センター・学生会館・如水会館の 4 会場において開催された。この大会では、「医学教育の課題と展望～40 年の潮流を踏まえて～」を基調テーマとして、日本の医学教育の過去と現在の流れを捉え、今後の方向性を明らかにすることを目指した。主な企画を以下に示す。

大会長講演：伊東洋（大会長）「東京医科大学建学の礎に寄せて」

教育講演 5 題：堀原一先生（筑波大）「医学教育学会 40 年の歩み」、Kwan Chiu-Yin 先生（China Medical Univ.）「Forty years of PBL in medical education : a personal retrospect」、宮城征四郎先生（群星沖縄臨床研修センター）「我々は何故、臨床研修事業に参加するのか」、酒井シヅ先生（順天堂大学）「日本の医学教育の歴史と展望」、Hans Karle 先生（WFME）「WFME Global Standards Programme」

招請講演：Myung-Hyun Chung 先生（Yonsei Univ.）「Medical education in Korea : the histor-

ical background and the influence of U. S.」

市民公開講演 2 題：小柴昌俊先生（ノーベル物理学賞受賞者）「やればできる」、日野原重明先生（名誉会長）「健やかに生きるための生き方の選択」

これらのほか、シンポジウム 10 題、プレカンファレンスワークショップ 1 題、ワークショップ 5 題、一般口演 166 題、ポスター発表 121 題、会員懇親会、ピアノコンサート、役員懇親会などの企画が行われた。シンポジウムの 1 題はインターナショナルシンポジウムとして、ポスター発表の 1 セッションはインターナショナルセッションとして、英語で行われた。後者では審査が行われ、尾原春雄先生（沖縄県立中部病院）と武田裕子先生（三重大学大学院）が奨励賞を受賞した。2 日間の参加人数は 955 名であった。

#### ■文 献

松岡健：第 40 回日本医学教育学会総会および大会を終えて。医学教育 2008 ; 39 : 457-60.